

ハイブリッド

3 『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」

【全5回】／開催方法：現地のみ

おか ひろし
岡 宏
近畿大学
生物理工学部講師
中村元記念館
東洋思想文化研究所
研究員



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：10月8日)

【日 程】【全5回】 1回／月 第2土曜日
(10/12、11/9、12/14、2025/2/8、3/8)

【時 間】10：30～12：00

■受講に必要なもの

【テキスト】レジュメ配布

本邦においてSpiritualityやSpiritual Careについて考える時、「日本の」と限定を付して考えているのかと思うことがある。本邦でSpiritualityを「靈性」と訳すことがあるが、そこには鈴木大拙が「日本的靈性」と表現したことが少なからず影響している。

さらに、その著書『日本的靈性』では、宗教心の根源を成す「靈性」の全面的な開頭を「浄土思想」と「禅」とに関連付けて語ってみせた。かつて和辻哲郎は『風土』の中で、人間の営みは時間的・空間的所産と評した。『日本的靈性』が、「日本における靈性」を、宗教の「時間的」「空間的」営みに関連づけて語ったように、同じ手法で「〇〇的靈性」を考える必要がある。すなわち、「靈性」も「Spirituality」も、「〇〇における」内実が国によって異なる以上、言葉や宗教に違いがあるように、「靈性」も国によって異なりが生れる。つまり、「〇〇的靈性」は、各国の宗教文化との連関で考える必要がある。

ところで、現代ではスピリチュアリティ(=「靈性」)を考える時、必ずしも宗教との関連を考えない傾向がある。宗教や信仰を持たないが、「靈性」には関心を寄せる人々がいる。例えば、自然の摂理と一体化した人間の営み、中にはアニミズム的なものも少なからずある。現実世界の超越的存在に畏敬の念を抱く場合もある。スピリチュアリティの定義は、必ずしも一定とは言えないだけでなく、宗教と関連づける必要性を考えない場合もある。確かに鈴木大拙の「禅の思想」は、哲学的要素を多分に併せ持っているようにも感じられる。斯様な現実理解を示す必要もある。

本講では、鈴木大拙著『日本的靈性』を読みながら、本邦のSpiritualityやSpiritual Careの諸相について考え、さらに、「ケア」としての可能性についても考えてみたい。

【講義計画】

- 第1回『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」①
- 第2回『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」②
- 第3回『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」③
- 第4回『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」④
- 第5回『日本的靈性』と「スピリチュアリティ」⑤

【備 考】

講義に必要な資料は各回、配布します。